

協力会だより 第38号

発行 山梨県立考古博物館協力会 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923
発行日 平成26年3月31日 電話 055-266-3881
協力会ブログ <http://www.y-kyouryokukai.jp/>

平成24年度の協力会活動



★活動

- ・平成24年度考古博物館協力員委嘱式・協力会総会 (4月29日)
- ・ミュージアムショップ運営 (5月～3月)
- ・ボランティアガイド (通年)
- ・ミュージアムショップ運営委員会 (通年)
- ・第24回風土記の丘こども祭り (5月4・5日)
- ・夏休みフリーパスポートイベント体験補助 (5月～8月)
- ・古代のもちつき (平成25年1月2・3日)
- ・考古博物館冬まつり (2月16日)
- ・開館30周年記念特別展「インカ帝国展」 (9月18日～11月14日)
- ・特別展準備作業 (9月10・11日)
- ・常設展復旧作業 (11月17・18日)

★研修

- ・ミュージアムショップ研修 (5月13・16日)
- ・ボランティアガイド研修 (前期6月24、7月4日)
(後期1月16・20日)
(実習 2月23・27日)
- ・春季企画展勉強会 (5月13・16・19日)
- ・夏季企画展勉強会 (7月25・29日、8月4日)
- ・特別展事前勉強会 (8月25日)
- ・特別展事前研修会 (8月25・26・29日)
- ・冬季企画展勉強会 (12月9・12・15日)
- ・勾玉作り体験補助研修 (3月1・3・9日)
- ・第1回日帰り研修 (5月29日、6月9日)
- ・第2回日帰り研修 (3月23日)

平成24年度山梨県立考古博物館協力員委嘱式・総会・ボランティアガイド証交付式

開催日：平成24年4月29日（日）

場 所：風土記の丘研修センター

平成24年度山梨県立考古博物館協力員委嘱状交付が行われました。また、引き続き平成24年度山梨県立考古博物館協力会総会を開催しました。考古博物館開館30周年の特別事業などを見込み、新たに考古博物館協力員を追加募集したところ、多くのご応募いただき、24名が協力員となりました。※今回の協力員は追加募集のため委嘱期間が平成24年度（1カ年）です。代表して新規で協力員になられた網野さんに考古博物館神津館長より委嘱状が渡されました。これで協力員は総勢95名となりました。協力員の皆様と一緒に学びと楽しみのある考古博物館をつかっていきたいと考えております。ボランティア活動や講座、講演会、勉強会での学習活動など積極的なご参加とご協力をお願い致します。



上・新規協力員さんに委嘱状が渡される。
左・総会中の様子
右・新津 健先生の講演会の様子

考古博物館開館30周年記念特別展

「インカ帝国展～マチュピチュ「発見」100年～」

会期：平成24年9月18日（火）～11月14日（水）

山梨県立考古博物館は平成24年11月3日で開館30年を迎えました！それを記念し「インカ帝国展～マチュピチュ「発見」100年～」を開催致しました。会期中は毎週日曜日に博物館前にてコンサートを開催し、体験講座ではインカ帝国で使われていた「ケロ」という杯を作ったり、中南米で染料として使用される虫、コチニールを使って絹のストールを染めるなどインカ展に関連したもの作り教室も行いました。

多くの協力員の皆様にご協力いただき、展示資料の監視やミュージアムショップでの販売、チケットのもぎり、お客様のご案内など1日10名以上の方がボランティアスタッフとして活動されました。無事会期を終え、観覧数は64,865人と多くの方にご来館いただきました。これも協力員の皆様のおかげです。ありがとうございました。



●●● 平成24年度第1回日帰り研修 ●●●

「インカ帝国展と多摩川台古墳群」

開催日：平成24年5月29日（火）・6月9日（土）



国立科学博物館前にて、6月9日の研修メンバーと

考古博物館30周年記念特別展として開催される「インカ帝国展」の下見として国立科学博物館にて「インカ帝国展～マチュピチュ「発見」100年～」を見学し、他館のボランティアの様子やミュージアムショップの様子など当館の活動の参考になるように見て参りました。春季企画展で5世紀、古墳時代の展示を開催するため、同時期に作られたと考えられる多摩川台古墳群、浅間神社古墳、亀甲山古墳、多摩川台公園古墳展示室、宝萊山古墳などを見学しました。開催日を2日もうけたため多くの方にご参加いただきました。5月29日（火）は37名、6月9日（土）は29名の参加となりました。

考古博物館では9月から開催した「インカ展」ですが、この研修で学んだものがボランティア活動にかかれていたのではないのでしょうか？ここで研修を終えた協力員の皆様のご意見やご感想を紹介します。

◆◆◆ 平成24年度第1回日帰り研修 研修記 ◆◆◆

丹澤 恵美子さん

5月29日には、日帰り研修にも参加させていただき、ありがとうございました。謎に包まれたインカ帝国。車輪も文字も鉄器も持たなかった人々が築きあげた文明国家。そしてわずか160人ほどのスペイン軍に滅ぼされてしまったアンデス文明最後の国家。（謎があるから歴史はおもしろいのですが）

関心は持っていたけど遠い存在であったインカ帝国。今回インカ帝国展を見たことで少し近づいた気がします。秋に考古博物館で開催されるインカ帝国展。協力員として関わることでもっとも近づけることを楽しみにしています。研修のためにご尽力いただいた事務局のみな様に感謝申し上げます。



インカ帝国展見学中



5月29日のメンバーと



野口 正樹さん

5月29日、好天に恵まれて研修会に出発。パート1は今秋の特別展「インカ帝国展」の先取り視察である。心配された渋滞もなく順調に現地に着、そして視察開始。館内も思った程の混雑もなく、ま、空いている方が、雑踏の中、一つ一つ展示物をよく見ようと人の頭越しに四苦八苦しなくてもいずれ当館で飽きるほど見られるのだから大所高所から全体像を見れば、と達観していたのだがつい一点ずつじっくりと鑑賞してしまった。ミイラ氏ともバッチリ目が合った。大画面での3D映像は圧巻だったが、文字も車輪も持たない人々がどうやって遺跡を造ったのか、どうやって生活していたのか、技術的方法論をもう少し突っ込んだ検証が欲しいところだ。

パート2は古墳群の視察だが、古墳といえば人里離れた立地を想像するがここは完全に人々の日常生活に密着している。古墳という聖域と人々との関わり方の一つの在り様として興味深かった。

浅間神社の定形化された浅間造り本殿の壮麗さに目を奪われた。

研修地

- ・ 国立科学博物館
- ・ 多摩川台古墳群
 - ・ 浅間神社古墳
 - ・ 国指定史跡 亀甲山古墳
- ・ 多摩川台公園 古墳展示室
- ・ 東京都指定史跡 宝蓬萊山古墳



古墳展示室を見学



国指定史跡亀甲山古墳を見学



飯野 金雄さん

協力員としてはじめての日帰り研修に参加させていただきありがとうございました。とりわけ、インカ帝国展の開催されている上野の森はかつて動物園・博物館・西洋美術館・都美術館・芸大美術館等々を歩き回ったところだが、科学博物館は初めて入館するところだけにどんなところかと期待も大きかった。南米のインカ文明は数年前のナスカ地上絵の壮大なスケールの遺跡を写真で鑑賞し謎深い人間の技に驚いたことがよみがえってきた。

今回の展覧会では、特に3D映像によるマチュピチュ遺跡を俯瞰する体験は身を乗り出し胸躍るシーンの連続に大いなる臨場感を味わい感動した。まだまだ謎の多いインカ帝国文明の今後の新しい研究に期待したい。山梨展示にあたっても多くの人に呼びかけて実物にふれた感動を味わっていただくよう働きかけたいと思った。



室岡 美保子さん

インカ帝国展～マチュピチュ「発見」100年～を見学。

インカ帝国では衣服の製作が盛んで衣服の出来る過程などが紹介されていました。機械も文字も持たない時代に難しい機密な模様の織物等は絶賛するばかりだった。展示見学のあとは特大スクリーン3D映像として上映。空からの旅はとても楽しかった。マチュピチュの遺跡がバーチャルリアルティ映像で精密に表現されているのがとても印象的でした。再度見たいな！昼食後は多摩川台公園内の古墳群を見てまわった。樹木に囲まれてとても心地よい見学だった。今回の研修で得たこと、感じたこと等をふまえて来館者が楽しく見学できるようにサポートしていきたいと思います。素晴らしい企画を有難うございました。

●●● 平成24年度第2回日帰り研修 ●●●

「南信州 下伊那の縄文と騎馬に思いを馳せる旅」

開催日：平成25年3月23日（土）



上郷考古資料館にて埋葬された馬の骨を見る

第2回目となる日帰り研修は高岡1号古墳、恒川遺跡群、飯田市上郷考古博物館、飯田市考古資料館、旧小笠原家書院、小笠原資料館を見学しました。

東海地方と接する南信州の縄文文化、なかでも広域的な交流が読み取れる唐草文系土器は、注目に値します。また騎馬文化では、甲府市塩部遺跡からは4世紀後半の馬歯が出土していますが、古墳時代の馬葬例は長野県の下伊那地方に集中しています。とくに飯田市では28例があり全国的にも他に類を見ないものです。一般7名の方も参加し協力員は29名の方が参加され、実際に現地に立ち彼の地の風に吹かれて、下伊那の文化を感じて参りました。



上郷考古資料館の前で集合写真

研修地

- ・長野県指定史跡 高岡1号古墳
- ・恒川遺跡郡
- ・飯田市上郷考古博物館
- ・飯田市考古資料館
- ・旧小笠原書院（重要文化財）、小笠原資料館



上郷考古資料館にて学芸員の解説を聞く



恒川遺跡群を歩く



恒川清水、祭祀の場であったと言われている

◆◆◆ 平成25年度第2回日帰り研修 研修記 ◆◆◆



飯田 敬さん

待望の研修である。テーマ「下伊那の縄文と騎馬に思いを馳せる」とは何ともロマンティックだ。私の姓である飯田市を訪れるとは感慨深い。当地は肌寒かった。高岡1号古墳は小さな石室である。恒川遺跡群は今は畑である。当時の役所の様子は想像するしかない。訪れた博物館はいずれも小規模だ。展示される土器は山梨のものよりだいぶシンプルであり小型だ。粘土の質によるそうだ。馬の骨がかなり出土している。今のものよりだいぶ小柄だ。村石先生が戦車であり、トラックだと論ずるが納得するに時間がかかる。旧小笠原家書院は日本建築の代表である。管理人の方の説明も迫力がある。資料館は逆に斬新すぎて違和感があった。いずれにしても天候に恵まれ充実した一日であった。企画された事務局の方々に感謝します。研修を終えバスより下車すると駐車場の桜が咲く時より満開に近かった。



上・松本市考古資料館を見学する様子
 中、下・小笠原資料館。美しい建物の前で管理人の方にお話していただく
 左・旧小笠原書院、懸造の書院について解説していただく



内藤 敏夫さん

南信州「下伊那の縄文と騎馬に思いを馳せる旅」に参加して見学場所、行程、時間等とても充実しており、私も参加した一般人も感激したところである。

飯田市内だけで上郷考古博物館と考古資料館の2つがあり、美術館等も合わせると長野県では82もの施設があり、文化面で充実していることがうかがえた。市内から30もの古墳が発見されていることもあるのだろうか。

各館内の展示品や資料を見ると「ふりがな」が多く付されており、読みやすくわかりやすく小学校低学年から大人まで、多くの方が考古学について興味を持つのではないかと思った。次回の研修を楽しみにしている。





田中 丹朗さん

- ・高速道路を通るとき、いつも飯田は通過地点で、降りたのは初めて。ここに、古代からのいろいろな遺跡が有るとは知らなかった。研修旅行だから来ることが出来たと感謝している。見学した遺跡の中で、特に面白かったのは、恒川遺跡と博物館で見た縄文土器。
- ・実際に現地に来てみて、伊那が東山道の要衝で、ここに郡衙が置かれた理由も納得。東山道はここから諏訪を経て上田に繋がるのだと何となく分かった様な気になった。恒川清水は古代から現代まで利用されてとのこと。大事に良く保存されて居るとびっくりした。私自身は郡衙遺跡という観点で、遺跡を見て来なかった。これから甲斐の群衙や国衙はどうなっているのだろうか勉強してみようと思った。
- ・見学した博物館で見た縄文土器は、形や模様だけでなく使われている粘土など山梨の土器との違いが大きいのも分かった。小型土器が多いのは粘土が豊富でなかったためではないかとの解説に納得。この時代は、地域間の交流は少なかったから、文化に地域の独自性が色濃い。縄文土器を見ながら、その時代のことを考えるのは本当にロマンチックだ。
- ・この研修は、ルートの下見、分かり易い研修手引きの作成、現場での的確な解説など、事務局の方々の大変なご苦勞で成り立っていると改めて思った。この研修を機にいろいろなことを考えることが出来て有意義な一日だった。
- ・事務局の方々のご負担は大変でしょうが、このような研修を本年も是非とも継続して欲しい。

協力員の皆様に勉強会を開いています

考古博物館協力会では協力員を対象に学芸員の解説のもと展示を見る勉強会を開催しています。

平成24年度は企画展で勉強会を開催しました。

また、特別展「インカ帝国展」では事前勉強会を行いました。展示室で学芸員のレクチャーを直接受けられる機会はなかなかありません。その場で質疑応答ができるのも勉強会の魅力です。考古学への興味を深め実りある学習の場として、ぜひ勉強会を活用していただきたいと考えております。

- ◇春季企画展「躍動の5世紀～古墳時代中期の山梨～」
- ◇夏季企画展「土偶のねがい」
- ◇冬季企画展「甲州市内の出土品Ⅱ」



常設展、甲斐銚子塚古墳のコーナーをガイド中

★ボランティアガイドのご案内します★

考古博物館では協力員が土・日・祝日やイベント開催日を中心にボランティアガイドを行っています。年3回の研修、実習を経て学芸員に認定された方が館長よりボランティアガイド証を交付されガイドとなることができます。ガイドの方々は来館者の方に当館の豊かな資料を知ってもらおうと熱心に勉強し、話し方や声のかけ方を日々工夫しています。当館に来館されたときは、ぜひガイドに話しかけてください。考古学・歴史の知識や収蔵品についてだけではなく地域の話や山梨の観光についても話が聞けるかもしれません。



ミュージアムショップ委員

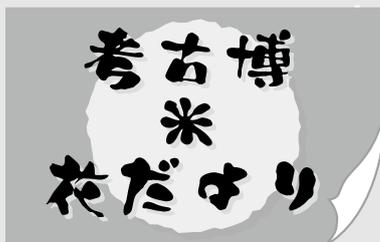


ショップで販売する
勾玉づくりのセット
を作っています。

ショップ通信を発行
しています。

当館の考古博物館の協力員の有志10名が「ミュージアムショップ運営委員会」を開いています。月1回程度委員会を開き、オリジナル商品の開発や商品のレイアウト、接客の仕方、ショップの運営について話し合っています。ショップ委員会の皆さんは新しく協力員になった方を対象にした「ミュージアムショップ研修」での講師としても活躍し、当館協力員の主な仕事であるショップ運営について教えています。

また、ショップ委員会では「ミュージアムショップ通信」を協力員に向けて発行しています。ショップ委員、協力会事務局の紹介やレジ打ちのアドバイスなどミュージアムショップ運営に関する内容が可愛いイラストと共に書いてあります。ボランティア活動を主体的に楽しみもっとお客さんにきてもらいたいと思う気持ちが伝わり、協力会事務局、博物館職員も熱意のある活動に感謝しています。



総会のお花も！



月に1回ほどの頻度で、協力員の原田みゆきさんが季節に合わせたお花を生けてくださいます。また、受付前に置かれた可愛い置物は協力員の山地千恵子さんが作ったものです。ショップには小澤純一郎さんがつくった小物も飾られています。季節に合わせたお花や小物は来館したお客様を和ませています。お客様や職員への優しさや細やかな気遣いを、いつもありがとうございます。



ショップにあるクリスマスツリーとても可愛いです。

おくやみ

平成13年度から協力員をされていた野口正樹さんが平成25年10月に急逝されました。ボランティアガイドや図録の編集、勾玉作り体験などのお手伝いをしていただき、12年間当館にご協力くださいました。心からお悔やみ申し上げますとともにご冥福をお祈り申し上げます。



◆編集後記◆

◇協力会だより38号の発行が遅れ申し訳ありません。寄稿して下さった協力員の皆様に感謝申し上げます。ぜひ皆様のご意見、ご感想をお聞かせください。また、今後とも考古博物館へのご協力をよろしくお願いいたします。(事務局)